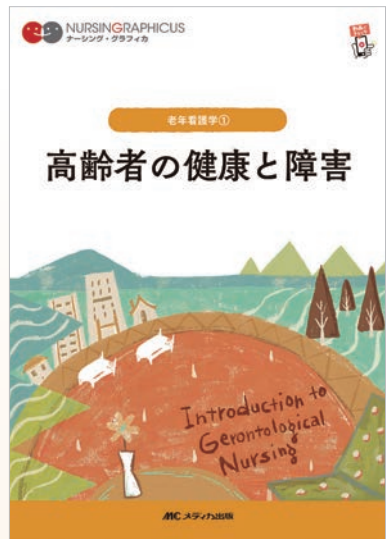


基本を押さえながら、
高齢者看護をより身近に・イメージしやすい教科書に



① 高年齢者の健康と障害 第8版

→詳細は p.70

編集 堀内 ふき 佐久大学信州短期大学部学長顧問, 客員教授
諏訪 さゆり 千葉大学大学院看護学研究院教授
山本 恵子 九州看護福祉大学看護学科教授

- 巻頭の特設ページで、**高齢者に関する施設・サービスと加齢による身体変化**を図解。言葉だけでは理解しづらい知識の整理に役立ちます。
- 臨床場面に即した事例**を豊富に掲載！普段高齢者と接することの少ない学生も、**具体的にイメージ**しながら高齢者の看護を学べます。
- 高齢者差別、エンド・オブ・ライフ・ケア、家族への支援、災害発生時の対応**など、近年の高齢者を取り巻く状況に合わせて、解説をアップデートしました。

▶ 動画22本収録

“その人らしさ”を尊重したアセスメントとケアのすべてが学べる
豊富な事例や図解で、より実習・臨床現場に即した内容にアップデート！



② 高年齢者看護の実践 第7版

→詳細は p.54

編集 堀内 ふき 佐久大学信州短期大学部学長顧問, 客員教授
諏訪 さゆり 千葉大学大学院看護学研究院教授
山本 恵子 九州看護福祉大学看護学科教授

- 各章扉に**事例とイラスト**を入れ、その章の**事前学習として学生の思考を促します**。事例は高齢者に多い疾患・症状のうち学生が実習で遭遇しやすい状況であり、各章を学ぶことで解決策のヒントが得られます。
- 年々患者数が増えている**白内障、変形性関節症、前立腺肥大症**などを図解を交えて詳説しました。
- 「関連図が苦手な学生が多いが書き方を教える時間がない」との声にお応えし、巻末付録ページ「**その人らしさがみえる”関連図 書き方のキホンとコツ”**」を新設！事例に沿って図解することで、**考え方と書く手順が視覚的に学べます**。

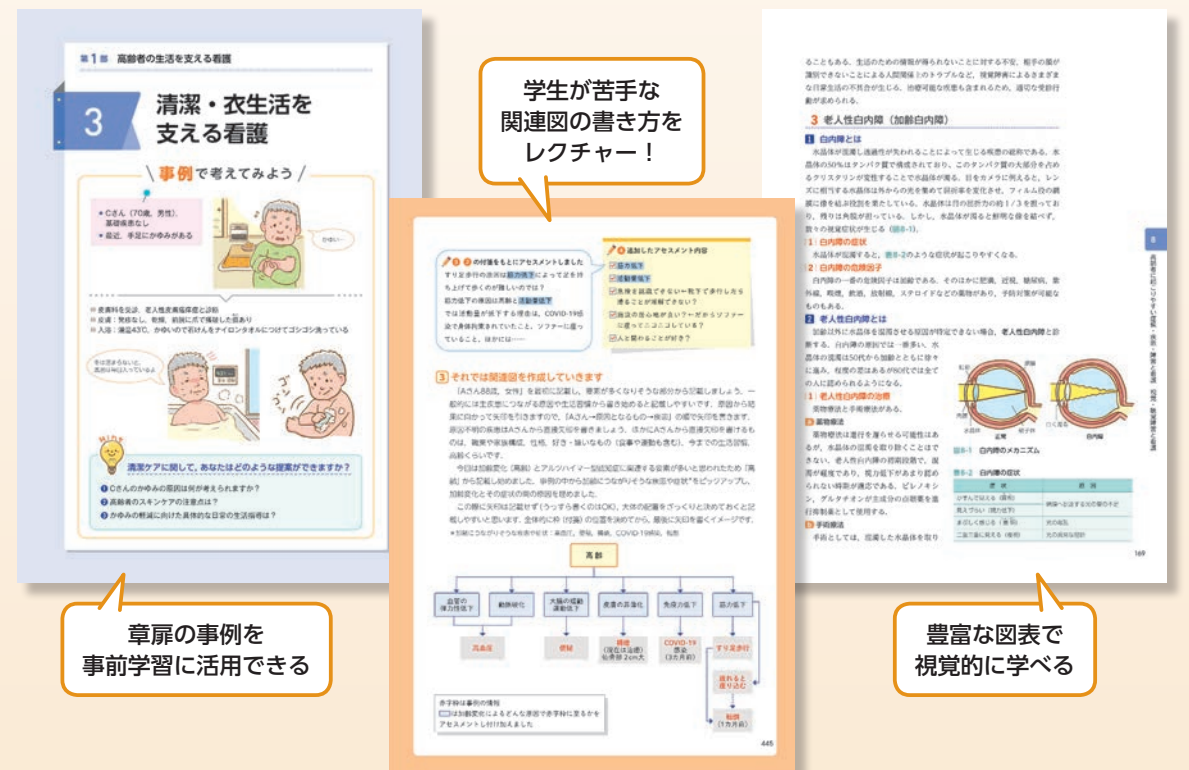
▶ 動画21本収録

図解を使って知識を整理！



事例の内容を膨らませて授業にも活用できます

学生が苦手な関連図の書き方をレクチャー！



章扉の事例を事前学習に活用できる

豊富な図表で視覚的に学べる

高齢者の健康と障害

電子版あり

B5判 384頁 カラー 定価3,850円(本体3,500円+税10%) ISBN978-4-8404-8469-5 第8版 2025年1月



本書の内容

- 現代の高齢者の特徴、社会的位置付け、高齢者にとっての「その人らしさ」や健康、QOLの意義などを、看護師国家試験必須の統計データなどと共に解説しています。
- 高齢者をサポートする法と制度や社会保障について、看護師の役割を絡めてわかりやすく解説しています。
- 施設や在宅など、多様な生活の場それぞれの特徴やケアについて、看護師の役割に触れながら具体的に解説しています。
- 高齢者看護の特性や、活用できる看護理論、倫理、アセスメント、高齢者特有のバイタルサインや疾患などについて、ポイントを絞って解説しています。
- 健康な高齢者の生活面への支援について、加齢変化のポイントを押さえながら解説しています。
- 高齢者の疑似体験やインタビューの基本、ポイントについて解説しており、演習で活用できます。

編集

堀内 心 佐久大学信州短期大学部学長顧問、客員教授 山本 恵子 九州看護福祉大学看護学教授
 諏訪さゆり 千葉大学大学院看護学研究院教授

執筆(掲載順)

堀内 心 佐久大学信州短期大学部学長顧問、客員教授 <1章1・2節, 2章4節5項>
 諏訪 達彦 佐久大学看護学部看護学准教授 <1章3節, 7章1節1項>
 成田 千春 佐久大学看護学部看護学准教授 <1章4節, 7章1節2項>
 梅崎かおり 大阪青山大学看護学部看護学講師 <1章5節1項, 4章3節>
 角 徳文 香川大学医学部大学院医学系研究科教授 <1章5節2項>
 安川 揚子 帝京科学大学医療科学部看護学教授 <1章5節3項, 6章5節>
 大塚真理子 長野県看護大学学長 <2章1節, 3章1・7節>
 岡田 進一 大阪公立大学大学院生活科学研究科教授 <2章2節>
 辻村真由子 滋賀医科大学医学部看護学教授 <2章3節1~3項, 3章2節>
 湯本 晶代 千葉大学大学院看護学研究院助教 <2章3節4項>
 山田 雅子 聖路加国際大学大学院看護学研究科教授 <2章3節コラム>
 石橋みゆき 千葉大学大学院看護学研究院准教授 <2章4節1~4項>
 諏訪さゆり 千葉大学大学院看護学研究院教授 <3章3節>
 堀内 園子 NPO法人すななみコミュニティ看護研究研修企画開発室長
 グループホームせせらぎホーム長 <3章4・5節>
 上原 朋子 晃陽看護栄養専門学校看護学教授 <3章6節>

酒井 郁子 千葉大学大学院看護学研究院教授/附属専門職連携教育研究センターセンター長 <3章8節, 4章6節>
 湯浅美千代 順天堂大学大学院医療看護学研究科教授 <4章1・2節1~3項(1)>
 戸谷 幸佳 群馬県立県民健康科学大学看護学部看護学講師 <4章2節3項(2)>
 関 千代子 元 つくば国際大学医療保健学部看護学教授 <4章4節, 6章1節>
 小長谷百絵 新潟県立看護大学老年看護学教授 <4章5節1・2項(1)~(9)(11)・3項>
 會田 信子 信州大学学術研究院保健学系教授 <4章5節2項(10)>
 上野 まり 日本在宅ケア教育研究センター主任研究員 <4章7節>
 征矢野あや子 京都橋大学看護学部看護学教授 <5章, 6章4節3項>
 浅野 均 つくば国際大学医療保健学部看護学教授 <6章2節>
 小野美香子 元 佐久大学看護学部看護学講師 <6章3節>
 中村 摩紀 医療創生大学国際看護学部看護学教授 <6章4節1・2・4項>
 佐藤 圭子 つくば国際大学医療保健学部看護学講師 <7章2節>

目次

- 第1章 ● 高齢者の理解**
 高齢者とは/高齢者の特徴と理解/高齢者にとっての健康/高齢者とQOL/加齢に伴う変化
- 第2章 ● 高齢者を取り巻く社会**
 高齢者の生活と家族/高齢者を支える制度/高齢者を支える社会資源/高齢者看護における倫理
- 第3章 ● 地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護**
 高齢者が生活する場/地域包括ケア/在宅/介護保険施設/地域密着型サービス/デイサービス、デイケア/高齢者の家族への支援/高齢者看護における多職種連携
- 第4章 ● 高齢者看護の基本**
 高齢者看護の特性/高齢者看護に関する諸理論/加齢に伴う身体的変化/高齢者に対するフィジカルアセスメント/高齢者に起こりやすい疾患/高齢者のリスクマネジメント/災害時の高齢者看護
- 第5章 ● 高齢者の健康維持・増進と予防**
 高齢者にとっての健康維持・増進/ヘルスプロモーション/高齢者の健康維持・増進を支える法律・制度・組織/介護予防/高齢者を対象とする健康維持・増進プログラムの要点/生活習慣病予防/認知症予防/転倒予防/健康増進プログラム参加者の事例
- 第6章 ● 生活を支える看護**
 コミュニケーション/食生活/セクシュアリティ/住まい/社会参加
- 第7章 ● 高齢者理解のための演習**
 健康高齢者とのコミュニケーション/高齢者疑似体験

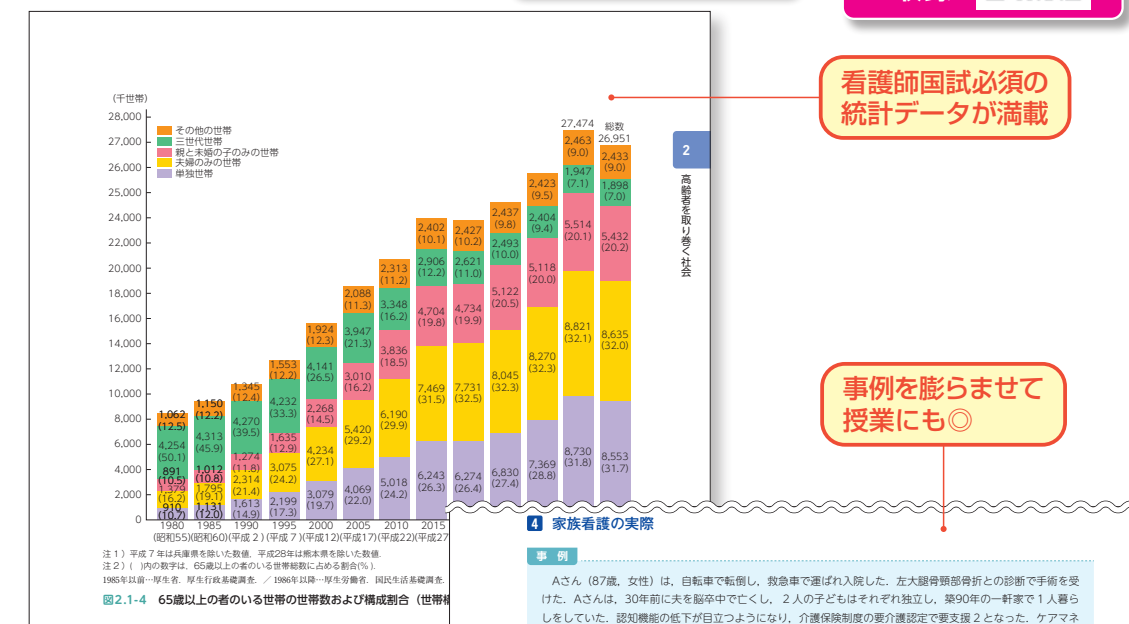
シラバス・授業計画案あり

動画 22本収録



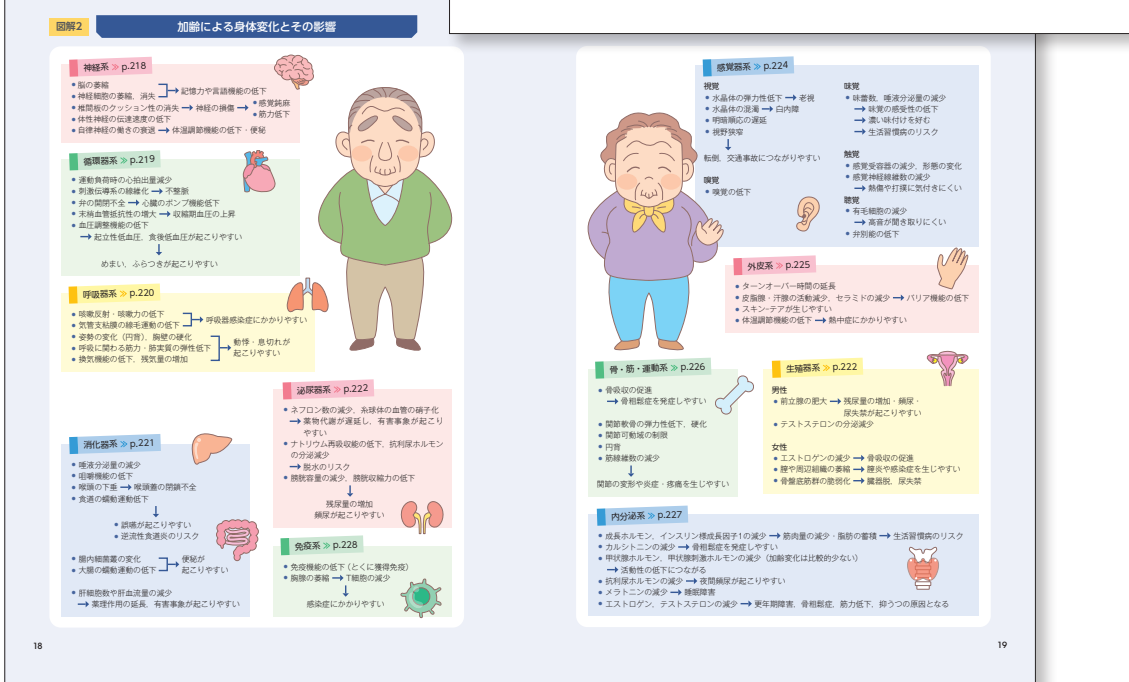
看護師国試必須の統計データが満載

事例を膨らませて授業にも◎



p.85

巻頭の図解で知識を整理!



高齢者看護の実践

電子版あり

●B5判 464頁 カラー 定価4,070円(本体3,700円+税10%) ISBN978-4-8404-8470-1 第7版 2025年1月



本書の内容

- 高齢者の看護を体系的にとらえることができるように、「生活」「症候・疾患・障害」「受療状況」に分けて解説しました。高齢者特有の内容に絞ることで、より効果的に学べるようにしています。
- 認知症については、人の尊厳や倫理的課題、コミュニケーション方法、自己決定など重要なポイントを押さえ、多職種連携や急性期医療、終末期における認知症高齢者への看護に必要な視点も養えるようにしました。
- 高齢者看護における薬物療法、手術療法、リハビリテーションについて、看護のポイントをまとめています。
- ターミナル期、臨死期、看取りといった時期において、高齢者、家族とどのように関わるか解説し、看護師としての役割や考え方について述べています。
- 慢性疾患をもつ高齢者や周術期の高齢者、リハビリテーション病棟、介護施設などの実習場面を想定し、事例をもとに、目標志向型思考に沿って、健康課題の抽出から看護実践・評価まで、詳しく解説しています。

編集

堀内 ふき 佐久大学信州短期大学部学長顧問、客員教授
 諏訪さゆり 千葉大学大学院看護学研究院教授

山本 恵子 九州看護福祉大学看護学科教授

執筆(掲載順)

浅野 均 つくば国際大学医療保健学部看護学科教授
 <1章1節1~5項, 7章1節>
 中村 摩紀 医療創生大学国際看護学部看護学科教授
 <1章1節6項, 3章, 6章3節, 11章1節>
 上野 良子 元 佐久大学大学院看護学研究所客員准教授
 <1章2~3節, 6章4節, 17章2・3節>
 上原 朋子 晃陽看護栄養専門学校看護学科教諭<2章, 17章6・9節>
 島村 敦子 東邦大学健康科学部看護学科コミュニティヘルス看護領域講師
 <4章1節>
 関 千代子 元 つくば国際大学医療保健学部看護学科教授<4章1節コラム>
 諏訪さゆり 千葉大学大学院看護学研究院教授<4章2節, 7章2節, 14章>
 山本 恵子 九州看護福祉大学看護学科教授<5章1・3~6節, 6章1節, 11章2・3節, 15章2~6節, 17章1節1項>
 征矢野あや子 京都橋大学看護学部看護学科教授<5章2節>
 小長谷百絵 新潟県立看護大学老年看護学教授<6章2・5・7節, 8章>
 會田 信子 信州大学学術研究院保健学系教授
 <6章6節, 9章3・5・6節, 13章3・4節>
 酒井 郁子 千葉大学大学院看護学研究院教授/附属専門職連携教育研究センターセンター長<7章3節>

亀井 智子 聖路加国際大学看護学部・大学院看護学研究所教授
 <9章1・2節>
 瀬尾 昌枝 順天堂大学医療看護学部助教<9章4節>
 北原 崇靖 九州看護福祉大学看護福祉学部看護学科助教
 <10章, 17章1節1項(3)・2項>
 佐藤 圭子 つくば国際大学医療保健学部看護学科講師<12章>
 渡辺みどり 長野県看護大学看護学部老年看護学教授
 <13章1節, 16章1節1・2項, 2~4節>
 篠原 綾子 佐久市立国保浅間総合病院内科病棟・糖尿病外来、認知症看護認定看護師・日本糖尿病療養指導士<13章2節>
 浅野 祐子 元 つくば国際大学医療保健学部看護学科准教授<15章1節>
 石橋みゆき 千葉大学大学院看護学研究院准教授<16章1節3項>
 高村 祐子 茨城県立医療大学大学院保健医療科学研究科老年看護学教授
 <17章4節>
 飯山 有紀 熊本保健科学大学キャリア教育研修センター認定看護師教育課程課程長・准教授、老年看護専門看護師<17章5節>
 小野 香奈 東京有明医療大学看護学部看護学科助教<17章7節>
 平松万由子 三重大学大学院医学系研究科看護学専攻准教授<17章8節>
 梅崎かおり 大阪青山大学看護学部看護学科講師
 <付録「その人らしさがみえる」関連図 書き方のキホンとコツ>

目次

第1部 高齢者の生活を支える看護

第1章 ●食生活を支える看護

食事/摂食嚥下障害/低栄養

第2章 ●排泄を支える看護

排泄/尿失禁/排便障害(便秘、下痢、便失禁)

第3章 ●清潔・衣生活を支える看護

清潔/衣生活

第4章 ●活動と休息を支える看護

活動と休息/睡眠障害

第5章 ●歩行・移動を支える看護

歩行・移動/転倒/骨粗鬆症/骨折/変形性関節症/廃用症候群

第2部 高齢者に起こりやすい症候・疾患・障害と看護

第6章 ●症状のアセスメント

高齢者に起こりやすい症状のアセスメント/痛み・しびれ/痒痒(かゆみ)/脱水/低体温・熱中症/浮腫/めまい

第7章 ●精神・神経機能障害と看護

パーキンソン病/うつ病/せん妄

第8章 ●視覚・聴覚障害と看護

視覚障害/聴覚障害

第9章 ●呼吸・循環機能障害と看護

肺炎/慢性閉塞性肺疾患(COPD)/高血圧/脳卒中/不整脈/心不全

第10章 ●泌尿器障害と看護

尿路感染症/前立腺肥大症/慢性腎臓病(CKD)

第11章 ●皮膚障害と看護

老人性皮膚掻痒症/褥瘡/スキン-ケア

p.19

④ 社会背景について理解する。

2 受け持ちケースの決定

85.0 さん 女性、パーキンソン病

3年前に夫を亡くした後、Eさん(1人暮らし)を心配し施設入居と暮らすようになった。1年前、施設後に戻り暮らし、胸の圧迫感や吐酸のため入院した。その間にパーキンソン病と診断され、内服薬の処方開始された。Eさんは「施設を辞めたい。自宅に戻りたい」と、施設から退院を希望している。

今回は、施設から退院を希望するEさんを担当とし、ケアを始めた。施設で療養の期間、認知症肺炎と診断され退院の日となった。入院5日には抗感染薬の処方終了し、退院もできたが、退院して過ごすことが多い。理学療法士による歩行訓練と認知症ケアによる歩行補助が開始されていた。学生が受け持ったのは、入院8日目である。

3 情報収集とアセスメント

1 パーキンソン病の特徴と支援

パーキンソン病は、脳の特定の領域がゆっくりと進行性に変性していく疾患であり、病気の進行の中で生活の質に大きな影響を与える。そのため、生じ得る症状を予測しながら本人が主体的に生活をセルフマネジメントできるように、長期にわたって支援が必要である。

2 受け持ち「目録(入居前)」の情報収集

看護生が受け持ったのはEさんに会いに行くこと、歩行訓練中であり、理学療法士と共に歩行訓練を受けてきたことだった。少し前がけの姿勢でゆっくりと歩いており、パーキンソン病の運動症状である足元が揺る揺るは認められなかった。ただ、ベッドに降りる際には、途中から勢いよく座っていた。腰かがめると目録が合い、園地実習でお話になる看護生であることを見た。すると、しっかりと顔を上げて、「看護師さんから聞いてました。私でお腹に立てるといだけけれど」と小さく弱々しい声で話した。

この日は、発熱も起きずさしきまなしとのことで、車椅子に降って話した。あらかじめ自己紹介すると、眼線をかけて元々のゲームの漢字を見て「○○さんね、よろしくお話しします。見えなくちゃね」とは笑えんが、そして、「早く元気がなくて家に帰りたい」と話したため、どうして早く帰りたいのかを尋ねると、「目がね、痛くなるために大学を卒業するの。毎日寝て行っていて、お弁当や夜食を作らなくていい」と話した。さらに、入院後の生活の様子を尋ねると、家族の健康を心配して来たこと、寝起きに乳首を絞ることを、血圧が下がらないよう夕食は前にならしていることなど、パーキンソン病と診断された後、Eさんらしい生活の工夫や価値観がみえてきた。

p.71

シラバス・授業計画案あり

動画 21本収録

豊富な事例とイラスト・図で看護実践をイメージ

1 食生活を支える看護

事例で考えてみよう

● Aさん(85歳、女性)

● 1年前、アルツハイマー型認知症を発症

● 寝転がって食事の摂取が難しく、歩行時は杖を使用し、シムバーカーで買い物に訪れていた

● 要介護1、週1回デイサービスを利用中

● 2か月前、同席の夫(87歳、要介護3)が施設入所(特別養護老人ホーム)となり、現在は1人暮らし

● 身長148cm、体重37kg(3か月前は体重40kg)

※ 地域で週1回開催されているシニアクラブの集まりに参加していたが、夫の入院後は参加していない

※ 買い物はなるべく近くにならぬまい、外出の頻度も減ってきている

あなたならどのような援助をしますか?

- 体重減少率は何%ですか?
- 低栄養の背景要因を考えてみましょう
- 看護師として、どのような支援が必要と考えますか?
- 低栄養で起こり得ることはどのようなことでしょうか?
- 多職種で取り組むケアについて考えてみましょう

① 仰臥位となって膝を立て、腹部の力を抜く。
 ② 深呼吸をしながら、臍部を中心として時計回りに大きくゆっくりと、円を描くように回す。
 ③ 援助者が行うときには、高齢者の呼吸に合わせて行う(息を吐いたときに圧迫し、吸ったときに力を緩める)。

マッサージの方向 臍部への手の当て方 指先での圧迫の方法

図2-16 腹部マッサージ

3点目 3横指
2点目 4点目
1点目 5点目
3横指

便秘のツボを意識しながら行う

実習を想定した記述

④ Eさんの退院(情報の整理)

退院に向けて、安全な食物形態の検討が必要である。認知症肺炎を予防し、おいしく安全に食事ができる口腔ケア/ボジション/嚥下体位など、Eさんと家族が、自宅に帰ってから継続して取り組めるよう支援することが重要である。

現在は、介護保険の申請手続きについて説明があり、自宅退院に向けてリハビリテーションが開始されている。しかしながら、促されないし床とされていることが多い。低血圧を助長すること、心身のフィラメントとなり、転倒・転落のリスクが高まっている。さらに嚥下期も低下することでも嚥下リスクが高まり低栄養状態を招くという懸念も出てくる可能性がある状況にあるケースである。

そこで、Eさんと家族が、パーキンソン病の進行に伴う嚥下や起立性低血圧をセルフマネジメントで、役割を継続して自宅での日常生活が安全に送れることを目標に、Eさんの健康課題を抽出した。